

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第365号
平成29年1月10日

練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

何を、どのように学ばせ、何ができるようになってほしいか

校長 鈴木 隆志

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年の干支（えと）は「丁酉（ひのと・とり）」です。「丁（ひのと）」には、植物が一定の大きさに生長し安定してきた状態を表す意味があり、「酉（とり）」には、果実が成熟の極限に達した状態を表す意味があります。言い換えれば、今年は何か一つの頂点に達し、転換期を迎えるということでしょうか。

昨年8月に、学習指導要領の改訂に向け、国の中央教育審議会より審議のまとめが示されました。その中でキーワードは、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」です。新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実が、学校教育に求められているのです。学校は、こうした方向性をしっかりと具現化していかなければなりません。一方で、保護者、地域の皆様の「何を学ばせたいか」、「どのように学ばせたいか」、「何ができるようになってほしいか」という思いや願いもきちんと受け止める必要がある、と思っています。

練馬区では、毎年『区民意識意向調査』を行っています。その中から、『学校教育に望むこと』を見ると、「練馬区はどのような教育活動に力を入れる必要があると思いますか。」に対しては、「命を大切にする、人権教育や道徳教育の充実」（55.1%）、「基礎基本の学力の充実」、「思考力・判断力・表現力の充実」（ともに54.8%）が上位を占めています。また、「練馬区の児童・生徒がどのような児童・生徒になればよいと思いますか。」に対しては、「思いやりがある」（66.8%）、「道徳心がある」（49.4%）、「人の話を聞ける」（34.7%）、「自立心がある」（31.4%）、「思いや考えを言える」（30.8%）、「創造力がある」（20.8%）、「体力がある」（16.0%）、「学力が高い」（14.3%）の順でした。「練馬区の区立小中学校の教師としてどのような教師が望ましいと思いますか。」に対しては、「授業をしっかりと分かりやすく教える教師」（49.7%）が最も高く、「児童・生徒のよい面・得意な面を伸ばす教師」（48.3%）、「児童・生徒の状況をしっかりと把握する教師」（44.0%）、「児童・生徒の話をきちんと聞ける教師」（41.1%）、「児童・生徒に公平に接する教師」（34.0%）と続きます。

民間の企業が行った調査からは、『子供に身に付けさせたい能力』として、「コミュニケーション力」（82.7%）、「集中力、忍耐力」（78.2%）、「想像力、チャレンジ力」（55.8%）、「プレゼンテーション力」（48.7%）、「論理的な思考力」（47.4%）、「知識の豊かさ」（37.8%）が挙げられています。

光八小では、保護者、地域の皆様の思いや願いに応える教育活動を展開してまいります。保護者、地域の皆様と共に歩み、共に光っ子たちを包み込む教育を紡ぐ学校であり続けたいと思っています。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

* 『区民意識意向調査』は、毎年、質問項目を絞って実施されています。学校教育に関するものは平成23年度のもの最新です。

**株式会社カウネットが行った、小学生以下の子供がいる、働く女性の「子供の学び」に関する調査。（平成24年）